

平成30年度
オーストラリアへの
白石市中学生派遣事業
実施報告書



白 石 市
白石市教育委員会

目 次

平成30年度国際交流事業概要	1
友好親善訪問団日程表	2
団員名簿	3
団員感想文	
1 白石中学校 山村萌々花	4
2 白石中学校 村上 紫音	10
3 南中学校 高橋陽菜乃	16
4 白川中学校 佐藤 光流	19
5 福岡中学校 山田 航大	22
6 東中学校 佐藤 瑠威	27
7 団 長 佐藤 由利	31
8 副団長 高橋 松雄	32
訪問団の写真から	33
平成30年度国際交流推進会議委員名簿	35

平成30年度国際交流推進事業概要

1 事業の趣旨

オーストラリアに中学生を派遣し、ホームステイや体験入学等の交流を通して、中学生の豊かな国際感覚を育み、互いの文化・価値観・生活様式等の理解と尊重を図り、友情を育むことを趣旨とする。

2 交流（派遣）先

オーストラリア・ニューサウスウェールズ州 カウラ市

3 カウラ市の概要

シドニーの西約300kmに位置し、シドニーからは車で4時間。ラクラン川の傾斜面に位置しており、地名はアボリジナル（原住民語）に由来し、町を見下ろす花崗岩の露出している部分、あるいは岩を意味するとされる。人口は約1万人。

第二次世界大戦中は、日本人の捕虜収容所があり、捕虜の脱走事件という悲劇が起こった。戦後は、平和と友好を願い桜の木が植樹されるなど、日本との関係が深い。

4 これまでのオーストラリアへの派遣の経過

- 平成5年11月 オーストラリア姉妹都市候補地視察訪問（市長、議長他）
※ 青少年を主体とした交流を提案
- 平成6年3月 白石市議員団8名がハーストビル市を表敬訪問
※ オーストラリアでは、市議会議員の中から市長が互選される制度であり、市議会議員の訪問は、市民の総意と受けとめられた。
- 平成6年8月 白石市中学生オーストラリアへの派遣事業開始。以降、新型インフルエンザの流行により中止になった平成21年度を除き、毎年派遣を実施。
- 平成6年10月23日 ハーストビル市との姉妹都市締結（市制40周年記念）
- 平成28年5月 ハーストビル市が隣接市と合併しジョージズ・リバー市となる。姉妹都市についての協議が進んでいないため、日本と関係が深いカウラ市を派遣先とすることになった。

平成30年度「オーストラリア友好親善訪問団」日程表

	月 日	地 名	時刻予定	主な行事予定	食事	宿泊	備考
1	7月25日 (水)	白石市役所 白石蔵王駅 発 東京駅 着 羽田空港 発	12:45 13:00 13:58 15:48 22:00	市役所1階ロビー集合 出発式 終了後バスで白石蔵王駅へ やまびこ142号 モノレールで羽田空港へ、軽食 カンタス航空(QF26便)	軽食 機内食	機内	私服
2	7月26日 (木)	シドニー空港 着 <small>聖ラファエル カトリック スクール</small>	8:30 夕方	(機内で朝食) バスでブルーマウンテン経由カウラへ ホストファミリーと面会、ホームステイへ	機内食 昼	ホームステイ	私服
3	7月27日 (金)	カウラ	終日	ホストファミリーの子供と一緒に、登校。1日体験入学 (聖ラファエル カトリック スクール)		ホームステイ	制服
4	7月28日 (土)	カウラ	昼	「日本庭園」でホストファミリーを招いて「バーベキューランチ」と「各種パフォーマンス」披露		カウラ ホームステイ	私服
5	7月29日 (日)	カウラ		ホストファミリーと1日過ごす		ホームステイ	
6	7月30日 (月)	カウラ シドニー	朝	集合、カウラ見学(収容所跡、日本人墓地など) バスにてシドニーへ移動	昼 夜	ホテル	私服
7	7月31日 (火)	シドニー	午前 18:00	自治体国際化協会シドニー事務所訪問 シドニー観光 「中華料理店」で「お別れディナー」	朝 昼 夜	ホテル	私服
8	8月1日 (水)	シドニー シドニー空港 発	9:30 16:00 17:00 20:50	荷物をホテルに預け朝食後、16:00まで「自由行動」 ホテル集合(時間厳守) ホテル発 バスでシドニー空港へ⇒チェックイン後、軽食 カンタス空港(QF25便)	朝昼兼 軽食 機内食	機内	私服
9	8月2日 (木)	羽田空港 着 羽田空港 発 東京駅 着 東京駅 発 白石蔵王駅 着	5:15 10:00 11:50	(機内で朝食) 両替、スーツケースを宅急便に預ける、軽食 やまびこ133号 ※白石蔵王駅にて帰国あいさつ後 解散	機内食 軽食		私服

平成30年度オーストラリア友好親善訪問団団員名簿

	学 校	氏 名	性別
1	白石中学校	ヤマムラ 花 山村 萌々	女
2	白石中学校	カミ シ 村上 紫音	女
3	南中学校	カハシ ヒ 高橋 陽菜乃	女
4	白川中学校	サウ ヒカル 佐藤 光流	男
5	福岡中学校	ヤマダ コウタ 山田 航大	男
6	東中学校	サウ ルイ 佐藤 瑠威	男

引率者

1	団長	サウ ユリ 佐藤 由利	白石市総務部税務課主幹
2	副団長	カハシ マツオ 高橋 松雄	南中学校教頭

オーストラリアに行。て
白石中学校 山村 萌々花
私が訪問団に応募したとき、かけは、二つあ
ります。一つ目は、中学三年生までに英検二
級を取りたいからです。オーストラリアに行
ってたくさん英語で話して、英語が上達でき
たらいいなと思、ていました。二つ目は、昔
アメリカに住んだことがあ、て、そのときに
日本とは環境が違、て楽しいと思、いました。
外国に行きたいと思、ていたの、オースト
ラリアに行けるかな、たときは、すごくうれ
しか、たです。
研修の一日目は、羽田空港で自由時間に先
生か、言、あ、れたミ、ニ、ンをクリアしていま
した。そのミ、ニ、ンというのは、外国人に
話しかけて言、あ、れたお題を聞くというもので
した。一回目は、すごく緊張して話しかけた
のに時間がかか、たけれど、二回目はそんな
に緊張せずに話しかけるれました。話しかけ
た外国人がとってもやさしい人だ、たので、し

かり話を聞いてくれてうれしか、たです。
二日目は、ミドニーの空港からバスで移動
してホストファミリーに会うために、わうら
の学校に行きました。初めて会ったときは、
緊張しました。けれど、家に行っ、てからホス
トミスターのジエスとのココと散歩をしま
した。質問したりされたりして、仲良くなれ
ました。そして、家と庭が広くて、家と家の
距離が離れてい、るとい、うことに驚きました。
三日目は、ジエスが通、ている学校に行き
ました。授業は数学、英語、日本語、体育を
しました。数学は小学校のときの内容だ、た
ので、とても簡単でした。英語では、オー
トラリアの方言みたいなのを教わりました。
例えば、アタマをアルがオマック
をマカスというふうにオーストラリアでは言
います。今、手紙の交換もしてい、るので、方
言を使、ていきたいです。家に帰、て、ネッ
トボールというバスケットみたいなやつをやりま
した。おもしろか、たです。

四日目は、午前中は買い物にいってカーンカ
ルーのぬいぐるみを買ってもらいました。う
れしか、たです。昼は日本庭園でバーベキ
ーランチをしました。紙芝居で桃太郎をしま
した。しっかり読みきれたのでよか、たです。
茶道はあまり人気がなかつたです。けれど、
おいしいと言ってもらえました。抹茶があま
い。たので、最後に私達二人でお茶をたてて飲
みました。私は、おいしいと思いました。そ
の後にジエスの友達のリフイの家に行きまし
た。リフイの家は農業なので牧場に行きまし
た。とても広か、たです。夜はラム肉を食べ
ました。少しくせがあ、たけれど、おいしか
つたです。

五日目は、リフイの誕生日だ、たので、お
誕生日会をしました。お昼は牧場でバーベキ
ーをしました。ホットドックを食べました。
おいしか、たです。そのあと、パン生地を棒
にまいて焼いて蜂蜜をつけて食べました。甘
くておいしか、たです。そのあとに、リフイ

のお父さんの車に私ともう一人の訪問団員の
陽菜^{サネ}ちゃんが乗ってカーゴルーを追いかけて
まわりました。すごく揺れて楽しかったです。
リファンの家に帰ると、ケーキを食べました。
午^ツこだ、たのびとても甘か、たけれど、お
いしか、たです。
六日目は、カウラ観光をしました。ガルー
コウニテンが見える展望台に行きました。柵
がなくとてもスリルがあつて、楽しか、た
です。
七日目は、ミドニー観光をしました。大使
館でオーストラリアについての話を聞きました。
た。いろいろ学べてよか、たです。オペラハ
ウスにも行きました。形が複雑^{複雑}でした。この
日は、お世話になつた戸倉さんのお別れディ
ナーで中華料理を食べました。前日に色紙を
書いたので、渡りました。喜んでくれたの
でよか、たです。
八日目は、自由行動でした。人に道を聞き
ながら、いろいろなおみやげ屋さんに行つて

たくさんおみやげを買いました。し、かり英語で道を聞けました。帰りも人に道を聞きながら自力でホテルにつけたのでよか。たです。この日が、一番人に英語で話しかけた気がします。バスに乗、空港に行きました。心から帰りたいな。たです。けれど、日本に帰ってきて、家族にオーストラリアのことをたくさん話して、すごく楽しかったなと思えたのでよか。たです。

私は、オーストラリアに行、て剣道を紹介しました。ミニ竹刀を持、てい、たので、それを使、て剣道とはどういうものなのかを説明しました。剣道とは、竹の刀を使、て戦うものというふうに言いました。私は、ミニ竹刀を使、て面、こ、胴を見せました。少しは剣道に興味を持、てくれたと思います。その後、ミニ竹刀をプレゼントしたらすごく喜んでくれたのでとてもうれしか。たです。

私は、今回、オーストラリアに行、て、オーストラリア人はやさしい人たちだなと思

オーストラリア LOVE♡

白石中学校 2年 村上 紫音

数年前、いとこの家がオーストラリアからのホームステイを受け入れる機会を白石市からいただいた事がありました。その時、私は小学三年くらいだったと思いますが、私も生活を共にしたことがありました。英語を習っていたのですが、全然、話しかけできなかつたことを覚えています。その頃、白石の中学生がオーストラリアにホームステイをすることができると聞き、その時から中学生になつたら、絶対に行きたいと思っていました。

オーストラリアの訪問は、私にとって、大きな経験となり、人生の中と忘れられない思い出となりました。

訪問する事前研修は、パスポートの申請や行くまでの準備などの説明会を含めると全部で五回ありました。事前研修会では、オーストラリアで日本や白石市の紹介やパフォーマンスを練習しました。出発までそんなに時間

がありませんでした。が、一緒に行く五人の仲間と力を合わせ意見を申し合ひ、楽しい時間を過ごすことができました。

ホストファミリーの情報は、出発前日の夕方に関決定しました。お世話になった学校の副校長先生のお宅でお父さん、お母さん、ホストシスター、ホストブラザー（兄）、ホストブラザー（弟）が2人、プードルが一匹いました。私は、初めてペットを飼う楽しさも経験しました。ホームステイは3泊4日でした。し人だけということもあり不安もありましたが、その不安はすぐになくなり、あっという間の4日間でした。日本と違うところがたくさんありました。特に日本と違うなと思っことは、日曜日のホストファミリーと1日を過ごした日の出来事です。

「何かしたい？」

と言われたので、

「アクリビティをしたい。」

と答えました。そうしたら、午後に同じオー

ストラリア友好訪問団員の航太君がホームステイしている家に行きました。しかし、航太君や航太君のホストファミリーは誰一人いませませんでした。そこで、帰るのかと思いきや、弟君たちやお兄ちゃん、お父さんまで地面に腰をおろし火をおこし始めたのです。私は、とまどいました。人の家に勝手に入り、キャンプファイヤーまでしているとはびっくります。でも、私はすぐに（まあ、ここは、オーストラリアだから自由なのか！）というホジキングな考えを持って、一緒に楽しみました。しばらくして火がとんとん燃えてきました。そして、一番下のホストグラマーが持ってきたピクマシユマロをそこから辺に落ちているえだにさして、マシユマロを焼き始めたのです。私は、その時、あまりの出来事についていけませんでしたが。私のホストファミリーだけかもしれないですが、日本まりすごくゆるい生活を送っていました。オーストラリアでは、1日の時間がすごくゆるくくりでした。で

も、ホームステイの時間は長いようで短かったのどとても残念です。

たくさん見学した中で一番の思い出の地は、ブルーマウンテンです。ブルーマウンテンは、青くみえる山のことです。私たちが行った時の空は霞がしつもないかいいせいで、とてもブルーマウンテンが美しかったです。ブルーマウンテンを見る展望台はいくつかあり、私たちが行ったのは、バスの運転手さんオスマのリンカーンズロックという所です。そこは、地元の人にも知られていない穴場でした。展望台は、さくがしつもないかげで、下を見ると、落ちそうな感じでした。私たちは、そのかげに座り、一人ずつ写真を撮ってもらいました。カメラのシャッターを押すときは笑顔でしたが、実際、ものすごく怖かったです。でも、ブルーマウンテンは山々が連なるきれいな場所でした。また、是非行ってみたいですね。

今日の訪問でたくさんのお話を学び、経験

してきました。これから、機会があったら
いろいろな国に行きたいと思えます。そして、
世界中の人とも、とも、と話をしたいです。
いつか、私の小さな力が世界のために役立つ
時の準備として、今の私は、少しでも日常会
話が自然にできるように、毎日の生活で使う
英語の表現を調べたり、声に出して慣れるこ
としかできませんが、日々、頑張っ ていきま
い。人と触れ合うことの大切さや素晴ら
しさを学ぶことができました。言葉は通じな
くても同じ人間同士、通じ合うことはできる
ことが分かりました。この経験は私にとって
一生の宝物です。この貴重な経験をさせてい
ただいた、このオーストラリア訪問までの準
備や支援をしていただいた関係者の皆さん、
また、訪問までに体験談やアドバイスをして
くださった3年生の先輩方、快く送り出して
くれた家族に感謝を申し上げます。そして、
この貴重な機会を手えていただきまして本当
にありがとうございました。このオーストラ

り了訪問でのことを生かして今後頑張ってい
きたいと思います。

私にと、て大きく成長した夏

南中学校 高橋 陽菜乃

私は7月25日から8月2日までオーストラ
リアへ行かせていただきました。

オーストラリアでの思い出はたくさんあり
ます。

1つ目は、初めてのホームステイです。ホ
ムステイは一番ドキドキしていて、自分か
ら話したりすることができるかとても不安で
したが、とても優しいホストファミリーのお
陰で、4日間のめでしたが家族になれた気が
しました。生活の中で日本と違う所もたくさ
んあり、カルチャーショックを受ける事も少
しありましたが、他の国の文化も学びたい私
にと、てとても刺激的なものでした。また、
ホストシスターの誕生日という大事な日を一
緒に過ごした事も私の大事な思い出です。

ホストファミリーと過ごす中で、日本のこと
もたくさん教えていただきました。「いただきます、
や「ごちそうさまでした」などのオーストラ

リ了の文化にはない言葉を教え、たくさん使
ってくれました。たった4日間でしたが、私
にと、とても楽しく、充実した日々でした。
2つ目は、英語という言葉の壁についてで
す。私は小学一年生から英語を習って、少し
英語を話すということに自信がありました。が
中々通じない事に苦戦しました。改めて言葉
の壁を感じてしまい、時々自分から話すのが
緊張した時もありました。話してみないとダ
メだと思い、話して通じたときの嬉しさは忘
れません。自分の殻を破り、成長できた時だ
ったと思います。

3つ目は、シドニー観光についてです。シ
ドニーでは、ホテルへ帰るのに迷ってしまい、
訪問団の皆と協力して、現地の方に英語で尋
ね、2時間かけてホテルへ帰ったことも楽し
しかつたことの1つです。自分から積極的に
外国人に話しかける勇気や、聞こうとする挑
戦になりました。自分達がピンチのときでも
自分たちの力で乗り切ることができました。

オーストラリアでは、日本との文化の違い
など、とてもたくさんを学び、体験し
てきました。短い9日間という期間で一回り
も二回りも成長させてもらいました。オース
トラリアで訪問団をサポートして下さい。た戸
倉さん、一緒に挑戦し、成長した五人、引率
して下さい。た佐藤団長、高橋先生、オース
トラリアへ行くまで支えて下さい。た市役所
のみなさん、ALTの先生や英語科の先生方
にはとても感謝しています。このオーストラ
リア訪問で学んだたくさんをこれから
の学校生活に活かしていきたいです。私にと
って大きく成長した夏になりました。本当に
ありがとうございました。

オーストラリア訪問に参加して
白石市立白川中学校 2年 佐藤 光流
私は、オーストラリア訪問に参加する時に
目標を2つ作りました。
1つ目は、「自分の将来に役立てる」とい
う目標です。私の将来の目標は、
UNESCOで教育についての仕事に就く事
です。UNESCOで働くためには英語、そ
して教育についての知識が必要です。今回の
オーストラリア訪問では、オーストラリアの
学校にホストブラザーの人と一緒に通いまし
た。海外の学校教育を実際に目で見て体験で
きる良い機会になりました。
2つ目は、オーストラリア・カウラ市の人
達と親交を深めながら「自分の英語を試して
みる」という目標です。実際に英語圏の国の
人と話す事でネイティブスピーカーの英語を
聞いて話す事ができます。このチャンスで私
は、自分の英語のレベルが分かるし、英語が
の大幅な向上と、その背景にある文化の理解

にわながると思いました。

この2つの目標を考え、7月にオーストラリア中学生派遣団の一員として行ってきました。

飛行機で、羽田国際空港からシドニー国際空港までおよそ9時間かかり、その後カウラまでバスで移動しました。カウラのホストファミリーとは学校で対面しました。初対面なので少し緊張しましたが、海外で海外の人と一緒に生活ができるんだと嬉しく感じたので緊張は少しずつ消えていきました。

ホストブラザーとの1日体験通学の日には歩いて学校に行きました。私は、海外の学校に行く事をとても楽しみにしていたので、気分はとても良かったです。学校で1番心に残った事は、生徒と先生の間には、明確な壁のようないものが無かった事です。日本では、生徒は先生の事を自分よりも上の立場に見るといふような文化や教えがありますが、オーストラリアでは、生徒と先生はよりフレンドリー

な感じてでした。

ホストファミリーには、様々な場所を紹介していただきました。例えば、カウラの大自然、川や大きなダム、そして町の展望台などです。どれも私にとって大変貴重な経験でした。

今回のオーストラリア訪問で、私はオーストラリアの人々はオープンで明るく、優しいという事が分かりました。しかし、これはオーストラリアだけの事ではなく、世界中の国で共通する事なんだと思いました。このオーストラリア訪問を終えて、自分の将来について、以前よりもはっきり見えてきた気がします。

この体験、ホストファミリーの人と過ごし、オーストラリアの生活や文化に触れ、親交をもらった事を様々な人々と共有しながら、学んで得た多くの事を将来に役立てようと強く思います。

オーストラリア訪問を終えて

福岡中学校 山田 航大

私が今回のオーストラリア訪問に応募した理由は2つあります。

1つ目は、前から、と外国に行、てみたいと思、ていたからです。日本の文化だけでなく外国の文化にも触れて、さまざま文化を知り日本の良さや外国の良さを知りたいたいと思、いました。

2つ目は、英語をも、と深く勉強したいと思、たからです。日本でも英語の勉強は出来るけれど、外国に行、て勉強したほうがより深くまで英語の勉強が出来て日本では教わらないことも知ることのでき、英語により関心を持てると思、たので、今回のオーストラリア訪問に応募しました。

1、2回目の事前研修会では緊張していて他の訪問団員とあまり話すことが出来ませんでした。けれど、3、4回目の研修会では他の訪問団員と仲良くなり、いろいろなことを

話すようになりました。オーストラリアに行く日は、とても緊張していて、座っていると落ち着きませんでした。オーストラリアに着くころには緊張もほぐれていました。けれども、やはり不安な気持ちがありました。それでも、せっかく外国に来たのだから楽しみたいと思う気持ちの方が強か、たです。

私のホストファミリーは白人家族で、とても優しく、私を楽しませようと、牧場を案内してくれたり、ボードゲームで遊んだり、卓球をしてくれたりしました。そのおかげで、オーストラリアでの生活が充実したものになりました。

ホームステイ先で一番思い出に残っていることは、ホストファミリーと一緒にカニガールを見に行っ、たことです。近くの家でカニガールを飼っているから行こうと言われたので車に乗って見に行きました。私は道路を通って行くと思、ていました。でも、道ではない場所を通、て行、たので驚きました。その時

に私はオーストラリアでは良いのかと思いましたが、日本では全体に体験出来ないことが出来たのでも良いか、たがす。

・近くの家に着いて近くでカンガルーを見ました。思、た以上に大きかったのでも驚きました。テレビで見たことはあるけれど、あまり大きくないと思、ていました。なので、少し怖か、たがす。触、ても良いと言われたのでも触、てみました。それなら、毛がやわらかか、たのでも驚きました。最初に感じた怖さも無くなり、可愛いと思ふようになりまじた。

また、オーストラリアに行、てカンガルーを触りたいです。

私はホストファミリーにお土産として、著とこけし、ファイル、習字を持、ていきました。

その時に白石について説明しました。

一番興味を持、てもらえたのは、白石城です。白石城は木造三階建てで天守閣からは白石市全体が見渡せて、春になると桜が満開に咲い

とても素敵な人だと言いました。

私は自石市のことを知ってもらえたので、
良かったです。これから、いろいろな人に
自石の魅力を伝えていきたいと思いました。

私はオーストラリアでオーストラリアの文
化や食生活、アボリジニなどについて学ぶこ
とが出来ました。

私は、話を聞くまでは、オーストラリアに
ついて、ほとんど知りませんでした。けれど
、話を聞いてからは、アボリジニなどについ
て、もっと詳しく知りたいと思うようになり
ました。

私は他の国にも行って他の国の文化も知り
たいと思いました。

私は今回の経験を今後の勉強や将来のため
に活かしていきたいと思っています。

私は学校で英語を習って、文法なども
だいたい理解しているつもりだが、たけれど、
実際は文法を理解していても口に出して言う
ことはとても難しいことだと思いました。

オーストラリアを訪問して

東中学校 2年 佐藤 瑠威

私は英語が前から好きで、将来海外を拠点とする仕事をしたいなと思っています。それで、オーストラリア訪問が何かのきっかけに必ずなると思い、訪問団に応募しました。

自分が訪問団に選ばれ、事前研修が始まるときに東中学校の代表が自分一人ということ、他校の訪問団員と仲良くやっっていけるかと不安ではありましたが、研修を重ねていく

ごとに六人の絆は深まっていきました。

研修が終わり、結団式の日がやって来て私は、生徒代表のあいさつをさせていただきました。自分の言葉で白石、日本代表としてオーストラリアに行ってくるという決意を表明できました。

7月25日、旅立ちの日がやって来て、市役所、駅にたくさんの方が私たちを見送ろうと集まっていたいただきました。この時、改めてたくさんの方の力を借りてこのような経験がで

きるのだと感じました。

羽田空港では実際に外国の方に質問をする
ということをしてしました。なかなか話しかけら
れなかつたけど、思いきって話しかけました。

そしてフライトの時間になりました。国際
線は初めてだったので何もかもが新鮮でした。
九時間のフライトの中で機内食を食ったり、
音楽を聞いたり、映画を見たり、と意外とあ
ったという間でした。

そしてオーストラリアの地に足をつけた時

の感動は言葉では表すことのできないもので
した。

シドニーからバスで約5時間でカウラに着
きました。着くやいなやホストファミリーと
の対面が待っていました。ここから4日間の
ホームステイが始まりました。私のホストブ
ラザーは同い年なのですが、パニ屋でアルバ
イトしていました。日本ではありえない出来
事だったのでびっくりしました。

1日目は緊張してしまいなかなか自分から

積極的に話しかけることができませんでした。
しかし、2日目にはホストブラザーと一緒に
学校に行って数学を勉強したり、バスケット
ボールをしたことや、夕方に野生のカニガル
ーやサンセットを見に行き、たぎの出来事
ファミリーの一員になれたことが確認できま
した。このことから自分から話しかける回数
が多くなっていきました。

3日目はカウラ日本庭園で桃太郎を英語で
発表しました。私は劇の担当で練習の時より

上手くできたと思います。この他にも書道、
茶道、折り紙と日本の文化を楽しませながら
伝承することができました。

4日目はホストファミリーと過ごす最後の
日だったので、少し寂しい気持ちでした。卓
球をしたり、ゲームをしたりと限られた時間
を楽しみました。

そして別れの日が来てしまいました。その
日の朝に私は4日間の感謝をホストファミリ
ーに伝えました。

シドニー観光でもたくさんの経験をすることができました。観光中、私たち訪問団大人は団長や副団長の助けをおまじり借りず、自分たちで道を聞いて行動しました。私は羽田空港の時と同じでなかなか思い切れなかつたです。

世界遺産であるオペラハウスを見たとき、私は感動しました。普段メディアで見ている建物を実際に現地に行き、自分の目で確かめるという感動を味わうことができました。

今回、オーストラリアで経験したことは私の人生の起点となるものになっていくことでしょう。何一つ無駄なことはないということを確認しています。たくさんの人に力を借っていたおかげで今に至ります。

本当に感謝しています。

いつの日かまたオーストラリアを訪れたいと心から思っています。このような機会を与えていただきありがとうございます。

オーストラリア友好親善訪問団を終えて

オーストラリア友好親善訪問団 団長 白石市総務部税務課 佐藤 由利

今回、友好親善訪問団の引率としてオーストラリア訪問にあたっては、責任の重さと不安を抱えての出発でした。

そんな不安を抱きながらも訪れたオーストラリアは、広大な大地に温かい人々がいて美しい風景や動物たちにたくさん出会える国でした。

今回訪れたカウラ市は、日本との関係が深い町と言われ、とてもフレンドリーで私たちをととても温かく迎え入れてくれました。

第二次世界大戦中の捕虜収容所や、戦時中に亡くなられた日本人が眠る日本人墓地、平和を願い植えられた桜並木、両国の友好の証でもある日本庭園など、日本とゆかりのある場所が点在しています。

初めてのホームステイには緊張しましたが、ホストファミリーには大変良くしていただきました。私の英語力では、彼らの言っていることをなんとなく聞きとることはできても返す言葉が浮かばない、何度もどかしい思いをしたことが、力不足を感じながらも、いろいろな体験をさせてもらい無事4日間のホームステイを終えることができました。

子供たちは、ホームステイや体験入学、シドニーでの自治体国際化協会訪問などを経験し、日本とオーストラリアの違いや、オーストラリアの良いところ、そして日本の良さを改めて確認できたように思います。

海外に行ってみて思うのは、訪れた国だけでなく、自身が暮らす国である「日本」についても客観的に見ることができること。お互いの国の生活習慣等についての違いや新しい発見、何より人との出会いが団員の今後の世界への視野を広げてくれるものと思います。

予定通りにいかないことも多く、私自身は不安になることも多々ありましたが、最後まで明るく元気いっぱいだった団員たちに感謝です。

団員の皆さんには、この訪問を機に知り合えた仲間とのつながりを大事にし、そして、オーストラリアで築いてきた友情の絆がいつまでも続くことを願います。

今回の訪問にあたり、ご尽力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

言葉の向こうにあるもの

オーストラリア友好親善訪問団 副団長 南中学校 教頭 高橋 松雄

「見てみろよ！ あの星座。南十字星だよ！！」

真夏の白石を出発し、約9時間後に私は、白石の暑さとは正反対の、夜の空に南十字星が美しく輝く真冬のオーストラリアに降り立ちました。真冬といっても白石の冬とは違い雪もなく、日が照っていれば季節が冬であることを感じさせないような温かさでした。

今回、私は2018オーストラリア友好親善訪問団副団長を仰せつかり、団長を務める佐藤由利さんと共に市内6名の中学生の引率者としてオーストラリアへ訪問することとなりました。8泊9日間の訪問プログラムを終え、生徒全員が無事に白石に戻って来たことに安堵しております。そして解団式の際に生徒一人一人が満足げな顔で思い出話を語り、仲間の肩をたたき合っている様子を見て、充実感と生徒たちの明るい未来を感じることができました。

さて、この度の訪問はこれまでの訪問とは異なる訪問でした。ハーストビル市からカウラ市へ変わり2回目の訪問であること。昨年度より人数が少なくなり6名であること。これらのことから、今回の訪問はカウラ市、特にホスト校を引き受けてくださった聖ラファエルカトリックスクールとの絆を深め、白石市とオーストラリアの関係を次のステップへとつなぐ大切な訪問であると感じておりました。生徒たちは私の思いを知っていたかのように、それぞれが力を発揮しておりました。

はじめに「私は、何も知らない。」これは私が事前研修会で最初に生徒に伝えたメッセージです。意味を理解できない様子が生徒の表情から分かりました。しかし、その本当の意味を生徒は事前研修とオーストラリアの研修で理解していきました。

まず事前研修において、カウラ市で披露する演技を生徒だけで考え始めました。はじめは指示を待っただけの姿勢でしたが、「何も知らない」私に相談はするものの、次第に自分たちでアイデアを寄せ合い英語版「桃太郎」を行うことに決定しました。英訳も役役も自分たちでALTに働きかけるなどし、完成させました。本番のカウラ市での発表では、多くの聴衆に囲まれ堂々とした立派な発表となりました。

次に、羽田空港において出国するまで少々時間があり、「外国の方に日本について質問しよう」ということになり、生徒は空港内を駆け巡り、それぞれが外国の方に英語で積極的に話しかけ、戻ってきては「優しく教えてくれた」と笑顔で報告していました。自分の英語にもちょっと自信が付き、話しかければ人種が違って心は通じることが実感として分かってきたようでした。

オーストラリアに到着し、ホストスクールを訪問し各学級でクラスメイトの一員として、またホームステイ先では家族の一員として生活を送ることとなりました。ほとんど日本人しかいない環境から、ほとんど、日本人がいない環境で生活様式や価値観も異なる生活に変わり、日本との違いに驚いたり、自信をもち始めた英語が通じなかつたりと、羽田空港で見せた自信たっぷりの表情が見られなくなるときもありました。そんな時、ある生徒が言った「待っていてはダメ。こちらから関わらなければ！」この一言で、6人は目覚めたように感じました。シドニー市内では買い物はもちろんのこと、滞在先のホテルまでタクシーを使わず、道行く人に話しかけ、英語で道を尋ねへトヘトになりながらもたどり着いたことは今となっては良い思い出となっております。生徒は「必ず教えてくれる。分からなくても優しく接してくれる」と言っていました。いつしか生徒は話しかけること、つまり「関わること」が、実は正しい英語を話すことよりも心が通じ合うために大切であり、同時に言葉の向こうにある大切なものを実感として気づいたようでした。

南十字星は南半球で見るからこそ美しく、価値もあると思います。同じように外国の方と話したり、文化を学んだりすることは、日本で書物やインターネット等を通じて学ぶより、現地で学ぶからこそ、感じたり、分かったりすることがあると思います。そのような意味において、今回のオーストラリア友好親善訪問は6名の生徒だけでなく、私自身にとっても貴重な経験となりました。

研修を通して生徒達は人種や国籍に関係なく互いが関わり合い、協力し合っていくことの大切さを学んだことと思います。訪問団員の6人にはぜひとも訪問で感じたことを多くの方々に伝え、さらに白石とオーストラリアをはじめとする世界の国や地域をつなぐ架け橋となり活躍してほしいと願うと共に、何かの運命で出会った6名がこれからもつながりを大切にしてほしいと心から願っています。

今回の訪問にあたり、佐藤由利団長には生徒への心温まる言葉かけや、研修の支援などしていただき大変感謝しております。また、多くの方々の支援があり、実りある訪問となりました。ご支援いただいたすべての皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

～学校での様子～ 聖ラファイエル・カトリックスクール一日体験入学。外で食べるランチは最高だね！



～ホストファミリーを招いてのランチパーティー～

超話題作！紙芝居「MOMOTARO」

寸劇担当の男子チーム、お客さんの判定は…



ややウケ！みんな頑張りました。



～日本文化を紹介しました～

書道男子のパフォーマンスにくぎづけ



折り紙は小さな子供にも人気でした



味覚には差があるようです…



出発前とは表情が違います。たくさんの思い出を胸に帰国しました。



平成30年度国際交流推進会議委員名簿

役 職	氏 名	所 属	職名
委員長	おがわ のりあき 小川 典昭	白石市立南中学校	校長
副委員長	ささき たかし 佐々木 俊	白石市立大平小学校	校長
委 員	ししど かずひろ 宍戸 和弘	白石市立白石中学校	教諭
委 員	かの ようこ 狩野 陽子	白石市立南中学校	講師
委 員	さとう あきみつ 佐藤 昭光	白石市立白川中学校	教諭
委 員	たかの ゆみえ 高野 弓絵	白石市立福岡中学校	教諭
委 員	なかい ともこ 中井 朋子	白石市立小原中学校	教諭
委 員	すがわら じゅんいち 菅原 淳一	白石市立東中学校	教諭



平成30年度オーストラリアへの 白石市中学生派遣事業実施報告書

平成30年10月 発行

編集発行 白石市教育委員会 学校管理課

住所 白石市大手町1番1号

電話 0224-22-1342